

提案趣旨説明書

〈作品タイトル〉

オトノユ ～響きあう三河安城～

〈提案の趣旨〉

本提案は足湯とサウンドマップをリンクさせたアイデアであり、そのコンセプトは「音から生まれる賑わい」である。特筆すべき地域的視点は、「三河安城の音」である。駅周辺エリアで住民・観光客によって発見された音を、アプリ経由で共有、足湯空間においてもそれらの音を効果的に演出することで、人々は注目されていなかった三河安城ならではの音に気づくことができる。

本アイデアは、以下の2つの背景と1つの大きな課題に着目した。

背景①：安城市は「ウォーカブル推進都市」を謳っている。これに併せて、2026年にプロバスケットボールB1リーグの「シーホース三河」の本拠地となる多目的交流拠点が建設予定であり、出かけたくなる、歩きたくなるコンテンツが整備されようとしている。そこで、まち歩きを促進するサウンドマップと、さらにその休憩拠点として足湯空間を着想するに至った。人々は三河安城の音を探しながら駅周辺エリアを歩き、音をアプリ上に投稿する。住民・観光客は共に三河安城の魅力を発見し、楽しみながら、サウンドマップというひとつの大きな作品を完成させることができる。その後、足湯で歩き疲れを癒しながら、その中で生まれる新たな交流が賑わいに繋がることも本アイデアが提供できる価値のひとつである。

背景②：安城市は内閣府より「SDGs 未来都市」に選定されている。SDGsへの取り組みの一環として、長野県根羽村と森林整備協定に基づく分取育林契約を締結しており、矢作川の水源である「ねばの森」を環境教育の場として活用している。しかし、市民全体の約6割が、根羽村について認知しておらず(2020年度)、その恩恵や保全に対する関心は高いとは言えない。本アイデアでは、足湯空間創出の過程において根羽村産の木材を利用することを視野に入れている。この取り組みを住民や観光客に向けて周知することにより、SDGsへの意識醸成・普及・啓発はもとより、「ねばの森」の認知も併せて行うことが可能である。

課題：三河安城駅周辺では、スペースの有効活用ができていないこと、休憩拠点が少ないことによって、賑わいのある空間に乏しいといった現状がある。三河安城駅周辺はウォーカブル推進都市のもと、人が出歩くことが想定されている。しかし、広場には遊具が少なく、カフェや飲食店などの気軽に立ち寄れる場所も少ないことから、人が出歩かず、閑散としている。オトノユは、街中での周遊性の向上、交流の場の創出と駅周辺スペースの有効活用の観点から、この課題の解決に貢献できる。また、近隣の飲食店に協力を仰ぎ、足湯空間に出店やキッチンカーを配置することにより、人々が足湯で寛ぎつつ、飲食を気軽に楽しむことができる休憩所としての役割も将来的に見据えている。

本アイデアのイメージ図、実装計画などの詳細はポスターに記載している。SDGs 未来都市とウォーカブル推進都市を謳う三河安城に、「オトノユ ～響きあう三河安城～」を導入することで、憩い・交流の拠点が新たに創出され、賑わいが加速されるのである。